

静岡県地震防災センターに行ってみよう

地震・津波・風水害・火山について学ぶことができます

入場無料 見学は事前の予約をお願いします



開館時間 9:00~16:00 **休館日** 月曜日、年末年始

ご予約

見学を希望される方はWEB予約システムにより事前予約をお願いします。



インターネットによる防災情報

静岡県地震防災センター



静岡県危機管理部



お問い合わせ

静岡県地震防災センター

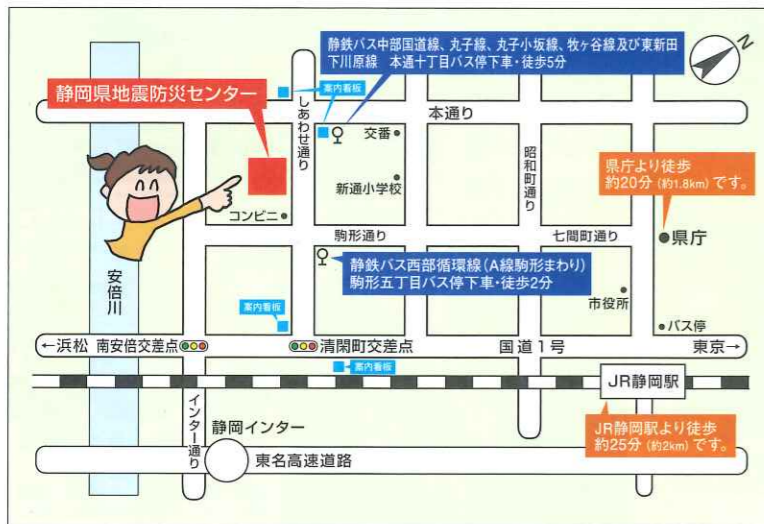
〒420-0042

静岡市葵区駒形通5丁目9番1号

TEL.054-251-7100

FAX.054-251-7300

アクセス



バスでのご案内

しずてつジャストライン

- 中部国道線・丸子線・丸子小坂線・牧ヶ谷線
東新田下川原線「静岡駅前(7番)」
本通十丁目バス停下車 徒歩5分
- 西部循環線(A線駒形まわり)
「静岡駅前(8番A)」駒形五丁目バス停下車
徒歩2分

東名でのご案内

東名静岡インターを降り「インター通り」を北進、国道1号「南安倍」交差点を右折、2つ目信号の「清閑町」交差点を左折、「しあわせ通り」の左側

ふじのくに 防災ガイドブック

知る。備える。行動する。



静岡県地震防災センター

Shizuoka Prefectural Earthquake Disaster Prevention Center

2 想定される大地震とは

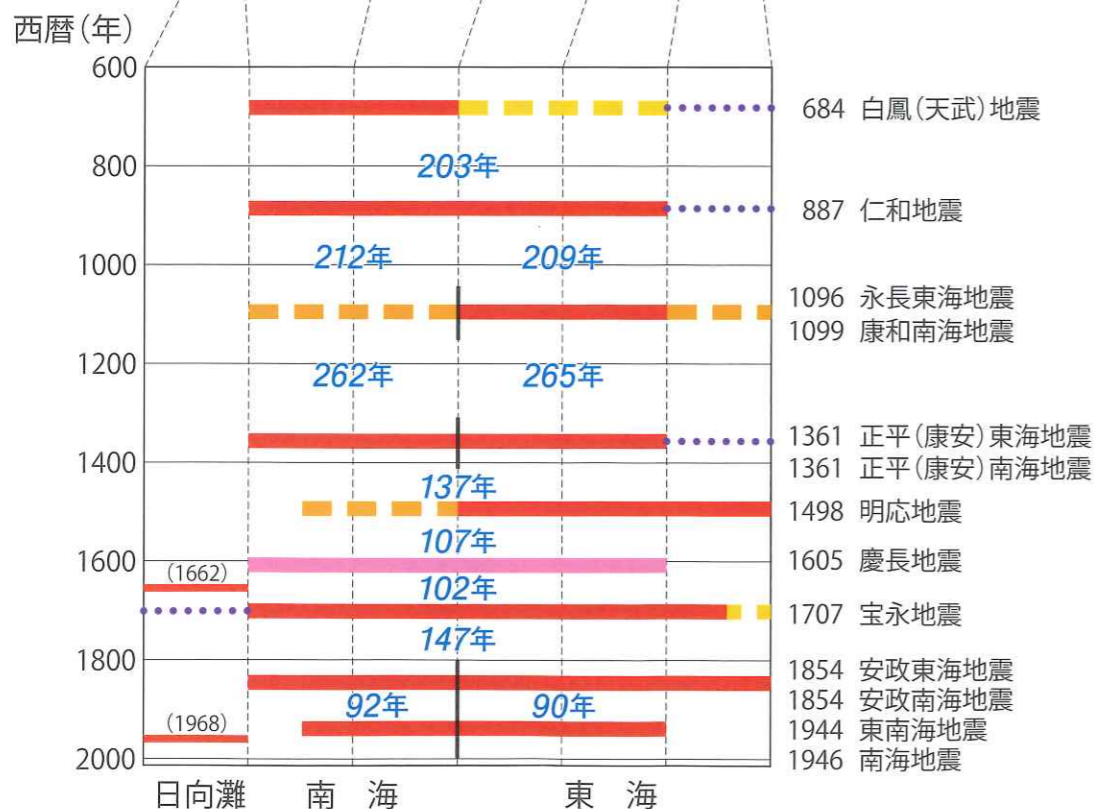
繰り返し起こる大地震

東海から九州にかけての海域は、フィリピン海プレートが潜り込む駿河トラフ・南海トラフ沿いに位置し、国の地震調査研究推進本部による南海トラフ沿いの地震の長期評価によれば、南海トラフ全域（日向灘～富士川の領域）において、M8～M9クラスの地震が30年以内に発生する確率は70～80%程度と予想されています。過去の事例からみて、南海トラフの地震の発生には多様性があり、駿河湾から日向灘にかけての複数の領域で同時に、もしくは時間差をおいて発生するなど様々な場合が考えられます。

南海トラフで過去に起きた大地震の震源域の時空間分布



出典：
『南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）について』平成25年5月24日、地震調査研究推進本部地震調査委員会



- 確実な震源域
- - - 確実視されている震源域
- 可能性のある震源域
- 説がある震源域
- 津波地震の可能性が高い地震
- 日向灘のプレート間地震(M7クラス)

※図中青い数字は、地震の発生間隔を示す。

※震源域は地形の境界(都井岬、足摺岬、室戸岬、潮岬、大王崎、御前崎、富士川)で東西に区切っている。

※黒の縦棒は、南海と東海の地震が時間差(数年以内)で発生したことを示す。

3 地震の被害想定

(1) 静岡県第4次地震被害想定

大陸プレートであるユーラシアプレートの下に、海洋プレートであるフィリピン海プレートが潜り込む、駿河湾から日向灘までの場所を南海トラフと呼びます。この南海トラフでは、繰り返し大地震が発生していることが知られています。一方、伊豆半島の東側には相模トラフがあり、ここでも繰り返し大地震が発生しています。

県は、これらの地震に備え、対策を推進するための基礎資料として、地震の被害想定を策定しています。

平成25年に公表した第4次地震被害想定では、発生頻度が比較的高く、これまでも繰り返し発生してきた地震(レベル1)と、実際に発生したことはなくても科学的にあらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震(レベル2)の2種類の地震について想定を行っています。

なお、近年、南海トラフでは、多種多様なパターンの地震が起きていることがわかってきました。

このため、次に発生する地震の震源域の広がりや正確に予測することは、現時点の科学的知見では困難であり、最大クラスの地震・津波の想定に基づき、地震対策を進めていくことが必要となっています。

想定地震

区分	駿河トラフ・南海トラフ沿い	相模トラフ沿い
レベル1 の地震・津波	東海地震、東海・東南海・南海地震等 (マグニチュード8.0～8.7) 【30年以内発生確率:70～80%】	大正型関東地震 (マグニチュード8.0～8.2) 【30年以内発生確率:ほぼ0～6%】
【津波対策上の位置づけ】	発生頻度が比較的高く、発生すれば被害をもたらす地震・津波(駿河トラフ・南海トラフ沿いでは、約100年～150年に一度の発生頻度) 防波堤など構造物によって津波の内陸への侵入を防ぐ海岸保全施設等の建設を行う上で想定する津波	
レベル2 の地震・津波	南海トラフ巨大地震 (マグニチュード9程度) 【発生頻度はレベル1の地震より1桁以上低い】	元禄型関東地震 相模トラフ沿いの最大クラスの地震 (マグニチュード8.2～8.7) 【30年以内発生確率:ほぼ0%】
【津波対策上の位置づけ】	発生頻度は極めて低いが、発生すれば甚大な被害をもたらす、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波(千年～数千年に1回程度の発生頻度) 住民避難を柱とした総合的な防災対策を構築する上で設定する津波	



※中央防災会議、地震調査研究推進本部地震調査委員会の資料を基に作成

6 地震や津波による被害



(1) 強い揺れから命を守る

- 地震発生直後は、わが身の安全確保が最優先。丈夫な机やテーブルの下などで身を守りましょう。
- 大きい地震の場合、強い揺れは長い場合には3分以上続きます。あわてて外に飛び出したり、無理に火を消そうとしないようにしましょう。
- 屋外にいるときは、落下物や転倒物に注意しましょう。特にブロック塀には近づかないようにしましょう。

(家具の転倒)



神戸市中央区(写真提供:神戸市)

(建物被害 1)



(建物被害 2)



(火災)



(液状化現象)



(神戸市広報課発行「震災10年～神戸の記録～」より)(写真提供:神戸市)

屋内での行動



丈夫な机の下など
安全なスペースに避難



つり下がっている
照明などの下から避難



慌てて外に飛び出したり
無理に火を消そうとしない

屋外での行動



ブロック塀や
自動販売機の転倒に注意



丈夫なビルの中に
避難する



揺れがおさまった後も
落下物に注意

(2) 津波から命を守る

- 静岡県では南海トラフ地震発生後、早いところは2分で沿岸部に1mの津波が到達すると想定されています。強い揺れを感じたら、すぐに津波避難場所等の安全な場所に避難しましょう。
- 強い揺れを感じなくても津波警報を見聞きしたら、すぐに津波避難場所等の安全な場所に避難しましょう。
- 事前に住まいや職場等からの最寄りの津波避難場所や避難ルートを確認しておきましょう。

(押し寄せる津波)



岩手県田老町

(津波が去ったあと)



岩手県宮古市

(「内閣府防災情報ページ」より)

すぐに避難が開始できるよう事前に備えておきましょう



揺れを感じたら
すぐに避難を開始



津波は想像以上の速さ
避難は「遠く」より「高く」



避難について
家族などで事前の話し合いを

1 被災後の生活

災害から命を守った後は、生活の立て直しを目指しながらの生活となります。

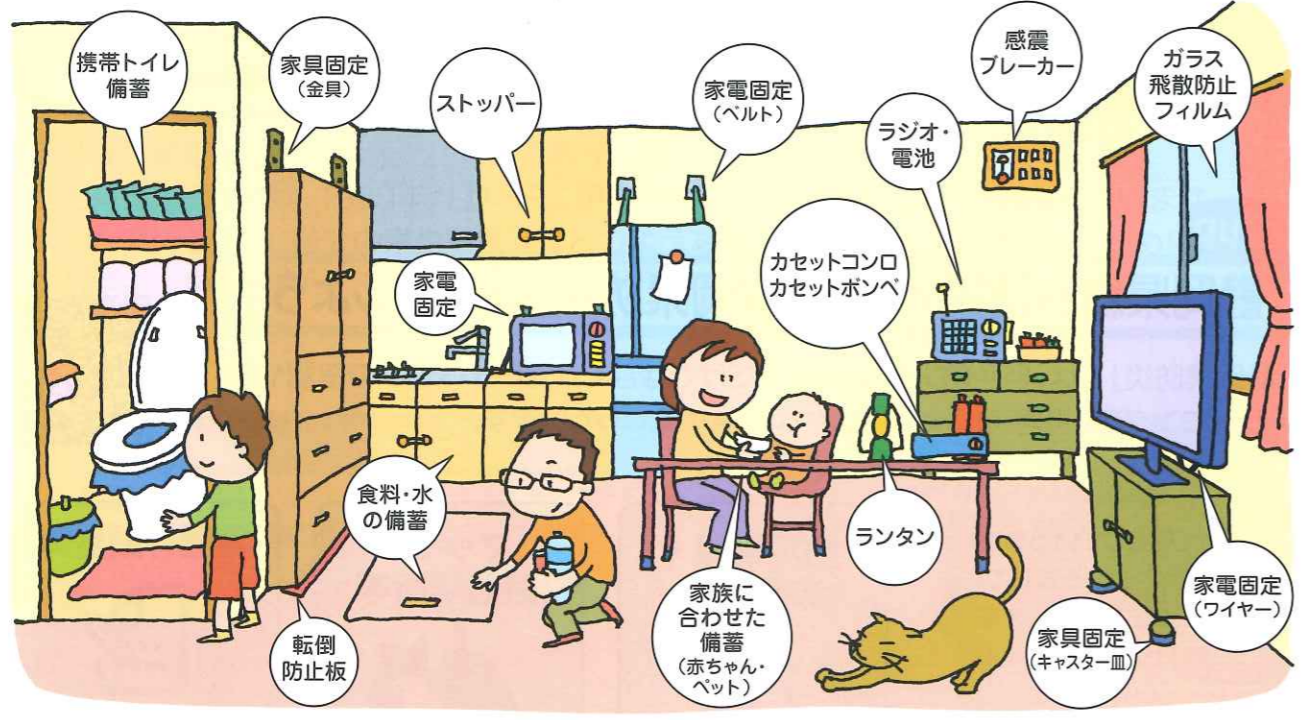
(1) 避難所での生活

被害により自宅に住めなくなった人、自宅の耐震性に不安がある人などは、市町が指定する避難所や地域の集会場などで避難生活をするようになります。避難所の運営は「誰か」がしてくれるわけではありません。避難者全員が主体となって、協力して避難生活を送ります。過去の災害の避難所では、トイレ不足や要配慮者*の困難、ペット問題など多くの課題がありました。おたがいが思いやりを持って生活することで、不自由な避難所生活を乗り切りましょう。

*要配慮者とは、災害が発生した時に特に配慮や支援が必要となる人で、高齢者、障害のある人、乳幼児のほか、妊産婦、傷病者、内部障害者、難病患者などが対象です。

(2) 自宅での避難生活

自宅の被害が軽微で、備蓄もしてあれば、自宅での生活を続けることができます。発災直後は、電気・上下水道・ガスなどのライフラインが止まるなどの不便はあっても、プライバシーを守ることができます。また、避難所などでの避難生活に比べ、速やかな生活再建に向け動き出すことができます。



【静岡県】
避難生活の手引き

【静岡県】
避難所運営マニュアル

(3) その他の避難生活

安全な親戚・知人宅等をたより避難生活する縁故避難もあります。また、過去の災害では、家庭の様々な事情から、避難所での生活に困難を感じた人が、自動車内で避難生活する車中泊避難を選ぶことが少なくありませんでした。車中泊避難も選択肢の一つですが、エコノミークラス症候群の危険性が高まりますので、予防のために、積極的な運動と水分摂取を心がけましょう。

2 自分と家族を守る「自助」

地震発生後も自宅で生活できるようにするためには、家庭の防災対策「自宅の耐震化」、「家具・家電の固定やガラスの飛散防止」、「家庭内備蓄」などが必要です。



【静岡県】
静岡県木造住宅
耐震補強
ITナビゲーション
(耐震ナビ)

(1) 耐震化(災害に強い家に住む)

震度7のような強い揺れの中では、人は何もできません。長時間を過ごす場所である自宅を、地震で倒壊しないようにしておくことが重要です。



出典:地震調査研究推進本部 (提供元:(国研)防災科学技術研究所 E-ディフェンス)

(2) 家具・家電の固定、ガラス飛散防止

大地震が突然来ても、命を失わないためには「家具・家電の固定」も重要です。また、ケガをしないためには「ガラス飛散防止」も大切です。

〈注意〉家具・家電の固定には、取り付ける場所の壁面や天井にも十分な強度が必要です。



【静岡県】
わが家の地震対策

使用条件	器具の効果				
	小				大
単独使用	 マット式	 ボール式	 ベルト式	 L型金具 (上向き取付け)	 L型金具 (下向き取付け)
	家具、壁面や器具に十分な強度が必要				
組み合わせて使用	家具と天井に十分な強度が必要		 ボール式+ マット式	 ボール式+ ストッパー式	

(3) 感震ブレーカーの設置

「感震ブレーカー」とは、地震発生時に設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具です。

地震などによる停電において、停電から電気が復旧することによって、倒れた電化製品や破損した電源コード等が火元となり「通電火災」が発生します。こうした二次災害を防ぐため、「感震ブレーカー」を設置しましょう。



【経済産業省】
感震ブレーカー
チラシ

(4) 必要な物資等の備蓄

南海トラフ巨大地震が発生すると日本の広い地域が被災地になります。電気やガス、水道、通信などのライフラインが止まり、また、支援物資が届くまでには相当時間がかかることが予想されます。生き延びるための備蓄を7日以上備えておきましょう。

飲料水

1人1日 **3ℓ** × 家族人数分 × **7日以上**

食料

1人1日 **3食** × 家族人数分 × **7日以上**

携帯トイレ

1人1日 目安**5回** × 家族人数分 × **7日以上**



備蓄食料
チラシ



携帯トイレ
チラシ

家族構成によって必要なものが異なります。例えば、赤ちゃん、介護が必要な方、女性、医療ケアが必要な方、アレルギーがある方、ペットがいる場合など、それぞれに必要なものがあります。

電気・ガス・水道・下水道などが使えない生活もイメージし「わが家に合わせたもの」を備蓄したり、代用品を考え備えておきましょう。



(5) 非常持ち出し品

「非常持ち出し品」を揃え、避難する時に速やかに持って出られる場所に備えておきましょう。迅速な避難が必要で、避難場所にしばらくとどまる場合に有効です。ただし、事前に用意できていなければ、避難行動を優先します。



3 自分と地域を守る「共助」

災害が発生したら、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うことが必要です。

(1) 自主防災組織は「共助」の要

大きな災害から自分や家族の命を守るためには、普段から身の回りの備えを講じておく「自助」が大切です。しかし、大規模な災害では、「自助」だけでは限界があり、地域の人々が協力し合いながら組織的に取り組む「共助」が必要です。

「自らの命は自ら守る。自らの地域は皆で守る。」が合言葉、一人ひとりが自主防災組織のメンバーです。



地域防災訓練で消火の指導をうける中学生

(2) 防災訓練に参加しよう

地域の防災訓練に積極的に参加し、顔の見える関係をつくっておくことが非常時の「共助」につながります。防災訓練の参加に合わせ、避難場所や、自宅から避難場所までの安全な避難経路も確認しましょう。また、家庭の防災対策（家具・家電の固定、備蓄、非常持ち出し品等）の見直しも実施するようにしましょう。

- 総合防災訓練…9月1日の「防災の日」の前後
- 地域防災訓練…12月第一日曜日
- 津波避難訓練…3月上旬



簡易担架搬送訓練をする中学生

地域の中の「多様な人々」、支え助け合う災害に強い地域づくり

わたしたちの暮らす地域には、性別・年齢・障害の有無・国籍・家族構成・就労状況の違いなど、様々な人々が生活しています。過去の災害では、個々の事情の違いから、同じ災害からの事象であっても、それぞれが抱える困り事の種類や受ける困難の大きさなどが異なりました。

地域防災に、多様な視点やニーズを反映させていくためには、自主防災組織においても、性別・年齢・障害の有無・国籍の違いなどにとらわれることなく、地域内の様々な人々が関わるしくみが必要です。それぞれの能力を十分に発揮できる環境が、災害に強い地域づくりにつながります。

地域防災活動マニュアル(2022年)
[静岡県地域防災活動推進委員会]

男女共同参画の視点からのみんなが
共に支え助け合う防災ブック(2024年)
[静岡県くらし・環境部男女共同参画課]

